

## 地域教育におけるスポーツの役割

地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科 3年

笠原花華

### 1. 良い教育を実現する意義

#### 1-1 教育との関わり

現在の私の志は、「子どもの教育をより良いものにして、未来に希望を持つ子どもを増やす」ということである。子どもの教育をより良いものにするには、社会にとって大きな意義があるからである。まず良い教育を受けることで、その子どもの将来や未来への選択肢が広がる。良い教育とは何かについては、後ほど自分なりの定義を示す。そして、自分の可能性を十分に知り多くの選択肢を持った子どもは、将来に対して希望を持つことができる。自分の将来に対して希望や夢、高い志を持つ若者が、その実現や社会のために自ら動くことのできる人財に成長することにより、より良い社会が作られていくだろう。つまり、子どもへの教育はこの循環の根源であり、社会的意義は大きいと言える。

きっかけは、大学1.2年生の間に行っていた予備校でのアルバイトである。多くの予備校では「生徒を第一志望校に合格させる」ことを目的としており、生徒やその保護者もそれを求めて入塾する。しかし、私が働いていた予備校では、生徒を第一志望校に合格させることは予備校としての前提としてあり、「独立自尊の社会・世界に貢献する人財の育成」を指導理念、「地域の高校生をより良い選択を与える」ことをミッションとしていた。これらを踏まえ、学習指導だけでなく志指導(キャリア教育)にも力を入れていた。そのような場で働き気が付いたこととして「高校生には知らないことが多いこと、知る機会が少ないこと」「将来に希望を持っておらず、ただ大学受験をする人が多いこと」がある。これは志指導にも力を入れていたからこそ気が付けたことだ。この経験が今の自分の問題意識に繋がっている。

#### 1-2 良い教育の定義・研究対象

次に良い教育とは何かについて考えていく。現時点では4つに分けて定義する。①知る機会、情報を得る機会が平等にある ②選択の機会が平等にある ③心身ともに健康な状態である ④自己の目標実現に必要な学力を備える この4点を満たしたものを良い教育と考え、その実現によって未来に希望を持つ子どもを増やすことを目指す。以下は①～④の説明である。

まず①について、人は判断をするとき、自分の知っていることから考察を行い選択する。反対に知らないことに関しては考えることもできない。自分が好きだと思っているものは自分が知っている範囲で好きなことであるため、知っている範囲を広げることで子どもの将来の可能性は広がり続ける。また、自分の興味関心について深く考えることや、知見を広

げるための活動を自ら行う子どもは多くない。大概のこどもは学校と家の往復で一日を終えており、勉強・部活・アルバイト・娯楽などに時間を多く割いている。将来について自分の人生について考え知る時間や機会は与えてあげなければならないのだ。

次に②について、選択の機会とは、将来の夢や志、自身のやりたい事をできる環境があることや、何をするかを自分で選択することができることを指す。環境が原因となり子どもの選択肢を狭めることはあってはならないと考える。

そして③について、子どもは身心ともに大きく発育するため、双方の健康状態を守るための教育が必要である。さらに④について、多くの選択肢を持ち夢や志が定まっている生徒でも、一定の学力や努力がなければそれを叶えることはできない。土台となる基礎学力は自己の目標実現に必要なものである。

しかし、教育といってもその幅や手段は多い。今回は日本における義務教育に着目し、4点を関連付けず現在の取り組みを調査する。そして、特に、地域教育におけるスポーツの役割について分析する。

## 2. 文部科学省の社会に開かれた教育課程とは

### 2-1 新学習指導要領の概要：地域教育の必要性

「学習指導要領」とは、全国どこの学校でも一定の水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準である。およそ10年に1度、改訂されており、子供たちの教科書や時間割は、これを基に作られている。学習指導要領においては、教育課程全般にわたる配慮事項や授業時数の取扱いなどを「総則」で定めるとともに、各教科等のそれぞれについて、目標、内容、内容の取扱いを大まかに規定している。改訂の意義は、学校は社会の中にあり、グローバル化や急速な情報化、技術革新など、社会の変化を見据えて、子供たちがこれから生きていくために必要な資質や能力についての見直しを行うことである。直近では2017・2018・2019年に学習指導要領が改訂され、小学校では2020年度～中学校では2021年度～高等学校では2022年度～新要領での学校教育が実施されている。<sup>1</sup>

今回の改訂のポイントは、子供たちの「生きる力」を育てていくにあたり、「社会に開かれた教育課程」の実現していくことにある。「何を・どのように学び・何ができるようになるか」の視点から「学びに向かう力・人間性、知識及び技能、思考力・判断力・表現力」の三つの力をバランスよく育む。具体的には、アクティブ・ラーニングにより深い学びの実践や、複数の教科等の連携を図りながら授業を実施、地域と連携したりしてよりよい学校教育

---

<sup>1</sup> 文部科学省「学習指導要領」とは？（2022年5月8日閲覧）

[「学習指導要領」とは？：文部科学省 \(mext.go.jp\)](https://www.mext.go.jp)

を目指すなど、カリキュラム・マネジメントを確立することなどがある。学びの内容としては、プログラミング、外国語、道徳、言語能力、理数、伝統や文化、主権者、消費者教育が新たに新設・変更される。また、体験活動、キャリア、起業、金融、防災・安全、国土に関する教育なども充実するとある<sup>2</sup>。



図 1 2017・2018・2019 年 改訂学習指導要領の考え方

出典) 文部科学省 学習指導要領改訂の考え方

[https://www.mext.go.jp/content/1421692\\_6.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1421692_6.pdf)

私は今回の改訂学習指導要領におけるキーワードは「生きる力の育成」と「社会に開かれた教育課程の実現」であると考えている。生きる力は、1996年7月の中央教育審議会答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」で提言された考え方であり、学習指導要領の作成にあたり長く大切にされてきた考え方である。そこでは、変化の激しい社会を担う子どもたちに必要な力は、基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力などの「生きる力」であるとされている<sup>3</sup>。このように変化しゆく社会で活躍するための素養や独立自尊の精神を身につけた、将来に希望を持った若者が社会を作っていくのであるから、今回の改訂では学校教育を社会と連携・協働しながら行う「社会に開かれた教育課程の実現」が強調されているのであると考えた。これは今回のゼミ論の意義にも共通することである。

<sup>2</sup> 文部科学省「新学習要領リーフレット」(2022年5月8日閲覧)

[新学習指導要領リーフレット \(mext.go.jp\)](https://www.mext.go.jp)

<sup>3</sup> 文部科学省「教育の情報化に関する手引」検討案(2022年5月8日閲覧)

[第1章 情報化の進展と教育の情報化：文部科学省 \(mext.go.jp\)](https://www.mext.go.jp)

## 2-2 新学習指導要領：体育科、保健体育科の変更点

体育科(小学校課程) 保健体育科(中学校、高校課程)における、平成 29・30・31 年の学習指導要領改訂にはどのような変化があったか。キーワードは「共生」「体育と保健の関連」であるとする。共生とは、体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができることを指している。しかし、生徒の困難さに応じた配慮の例を示すといった違いを大切にされた側面も見られる。次に、体育と保健の関連については、「心身の健康の保持増進や回復とスポーツとの関連等の内容等について改善する」と明記されている。<sup>4</sup>また、精神疾患の予防と回復の内容、健康に関する環境づくりと社会参加に関する内容を新しく加えるとしている。これは、現代的な健康課題の解決に向け、心の健康や社会参加の必要性に関する内容の充実を図ったと考える。

## 2-3 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて一国の取り組み

「社会に開かれた教育課程」の実現に向けては、文部科学省で具体的な取組をしている。この理念の実現に向けては、組織的・継続的に地域と学校が連携・協働していくことが大変重要である。以下では、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)と地域学校協働活動の一体的な推進活動について紹介する。

文部科学省は、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みと定義している。<sup>5</sup>そして、地域学校協働活動を、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動と定義している。<sup>6</sup>これらを一体的な推進していくためには、地域と学校が、子供たちの学びの充実のために、協議し、協働し、活動後の評価をして、また次の取組につなげていくという PDCA サイクルを回していくことが求められる。Plan では、保護者や地域住民代表、企業・組織などからなる「学校運営協議会」が、校長が作成する学校運営の基本方針の承認を通じて、情報共有を行う。そして熟議の場で目的・目標の設定や、効果的な手段についての協議を行

---

<sup>4</sup> 独立行政法人教職支援機構「新学習指導要領編」(2022年6月10日閲覧)

[新学習指導要領改訂のポイントと学習評価\(高等学校保健体育科\)\(nits.go.jp\)](https://nits.go.jp)

<sup>5</sup> 文部科学省「学校と地域で作る学びの未来」(2022年5月9日閲覧)

[コミュニティ・スクール\(学校運営協議会制度\) - 学校と地域でつくる学びの未来\(mext.go.jp\)](https://mext.go.jp)

<sup>6</sup> 文部科学省「学校と地域で作る学びの未来」(2022年5月9日閲覧)

[地域学校協働活動 - 学校と地域でつくる学びの未来\(mext.go.jp\)](https://mext.go.jp)

う。Do では、地域学校協働活動推進員等のコーディネートの下、多くの地域住民の参画による地域学校協働活動を展開する。Check では、学校評価の機能を持つ学校運営協議会が学校の教育活動全般に対する評価や、地域学校協働活動に関する評価を実施していく。Action では「学校運営協議会」が評価の結果を踏まえ次年度に向けて目的や目標を見直したり、具体的な活動の内容を工夫・修正したりする。また、学校運営協議会からは、学校運営や教職員の任用について教育委員会に意見を申し出ることできる。<sup>7</sup>

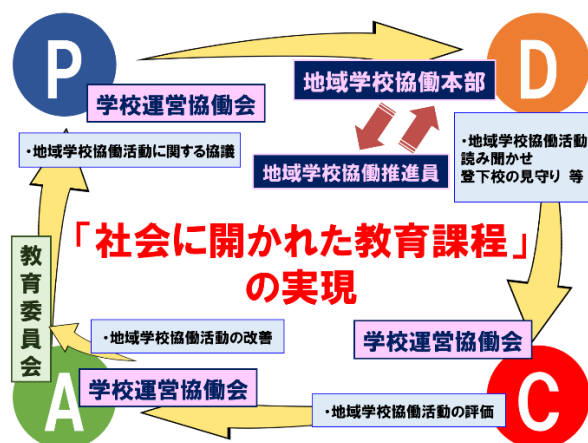


図2 「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の一体的推進  
出典) 文部科学省 地域と学校の連携・協働より筆者作成

<https://manabi-mirai.mext.go.jp/torikumi/chiiki-gakko/>

#### 2-4 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて—自治体の取り組み事例—

##### 北海道 栗山町「土曜授業推進事業」<sup>8</sup>

北海道教育委員会では、地域学校協働活動の推進を図るため事例集を作成してホームページにて公開している。今回紹介する事例は、平成28年度に地域学校協働活動推進に係る文部科学大臣表彰を受賞した活動である。教育課程に位置づけた土曜授業として、年間8～10回程度実施している。学校・家庭・地域・教育委員会が役割分担をし、それぞれの立場を活かし、連携・協働しながら体験的な活動を行っているのが特徴である。子どもたちが故郷である栗山を学び、地域の方との繋がりを楽しいと感じるように、継立小学校においては、アスファルト工場、トマト・メロン栽培農家や酪農家等と連携・協力し、地域の産業に関わる見学や体験等をとおして、キャリア教育を推進している。また、角田小学校では、スポーツテストや水泳教室等の体力向上に向けた取組や、防犯・防災教室、収穫感謝祭、ふれあい

<sup>7</sup> 文部科学省 地域と学校の連携・協働 (2022年5月9日閲覧)

[地域と学校の連携・協働 - 学校と地域でつくる学びの未来 \(mext.go.jp\)](https://manabi-mirai.mext.go.jp/torikumi/chiiki-gakko/)

<sup>8</sup> 北海道教育委員会 地域学校協働活動事例集 (2022年6月6日閲覧)

[jirei1H28103.pdf \(hokkaido.lg.jp\)](https://www.hokkaido.lg.jp/jirei1H28103.pdf)

発表会、冬の遊び体験による交流等、保護者や地域の方が参画しやすい活動を推進している。事業の成果は、「子どもたちは身近なものを体験的に学習したことで、色々なことに興味関心を持ち、日々の教育活動にも意欲的に取り組んでいる」や「地域住民の学校への関心が深まった」とあった。

栗山町の取り組みが上手くいった理由について考察する。まず、大きな要因としてコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進が実現していること、地域と学校をつなげるコーディネーターの存在があると考え。学校運営協議会での協議を踏まえた活動を行うことで活動方針が明確になり、学校・保護者・地域住民・教育委員会等の連携ができるようになったり、より効果的な活動が可能になったりしたのだと推測する。また、継続的な活動を行ったことも一つの成功要因であると考え。1回の活動だけでは、地域と学校はコーディネーターによって繋がれた関係で終わってしまう。しかし、継続的に活動を行うことで地域と学校(子ども)が直接的に結ばれる関係になり、結果として地域住民の学校への関心が深まることとなったのだと思う。

## 2-5 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて—企業等による取り組み事例—

文部科学省で推進している、土曜学習応援団<sup>9</sup>に賛同している民間企業・団体の中から「スポーツ」や「地域理解」を学習テーマとしている団体をピックアップした。<sup>10</sup>地域社会側の意見を調査すべく、その教育支援の実態や地域社会と教育の関係性について質問をした。

調査年月：2022年6月10日

調査対象：一般社団法人 日本オーストラリアンフットボール協会 榎道人氏

調査方法：メールによるインタビュー

初めに一般社団法人 日本オーストラリアンフットボール協会の活動について紹介する。「好きを将来の夢に！」という、自分の好きなことをいかにして将来の仕事につなげていくかを考える、キャリア教育プログラムを行っている。スタッフのオーストラリアでの生の経験談を聞き、友人と意見を交換し合うことで、自分だけでは思いつかないアイデアに出会ったり、互いの意見を尊重することを学んだりすることができる。<sup>11</sup>プログラムの大まかな

<sup>9</sup> 土曜学習応援団は賛同をした企業・団体・大学等が、土曜日をはじめとして、夏休み、冬休み、平日の授業や放課後等に出前授業や施設見学等を提供することで特色・魅力ある教育活動の推進を目指す、文部科学省で推進する取り組みである。

文部科学省 企業等による教育プログラム (2022年6月9日閲覧)

[企業等による教育プログラム - 学校と地域でつくる学びの未来 \(mext.go.jp\)](https://www.mext.go.jp/enterprise/education-program)

<sup>10</sup> 文部科学省 教育プログラムを探す (2022年6月9日閲覧)

[教育プログラムを探す：学校と地域でつくる学びの未来 \(mext.go.jp\)](https://www.mext.go.jp/education-program)

<sup>11</sup> 日本オーストラリアンフットボール協会 普及育成部 総合サイト (2022年6月24日閲覧)

[AFL Japan 教育支援プログラム \(jafl.org\)](https://www.jafl.org/)

流れは次の通りである。①本場のリーグで挑戦する話を通じ「少しの挑戦」を積み重ねることの大切さを感じてもらおう。②自分自身の好きなことに関わる方法を書き出す。③好きな事を具体的な仕事につなげる方法を考える。④将来の夢にアプローチする「小さな挑戦」を考える。⑤夢と夢へのアプローチ方法を共有しあう。⑥「小さな挑戦」を実践するためのミニワークショップとまとめ

アンケートでは、土曜学習応援団活動に参加したきっかけや理由、スポーツの子どもの教育・発達に与える影響、地域教育におけるスポーツの役割、子どもの学びを支えるために地域社会ができることなど12項目について調査を行った。回答を抜粋して紹介し、考察を加える。

榊氏は、文部科学省による土曜学習応援団活動に参加したきっかけには「もともと小学生に向けたオーストラリアンフットボールのクラブを運営しており、より多くの子どもたちにオーストラリアンフットボールを知ってもらいたいと考えたから。私達のオーストラリアンフットボールの本場であるメルボルンでの経験は、子どもたちの未来の幅を広げるために活かしてほしいと考えたから。」と回答した。

次に、スポーツの子どもの教育・発達に与える影響、地域教育におけるスポーツの役割については「スポーツは子どもたちにとって馴染みやすいものであるため、スポーツを通すことで普段取り掛かりにくいことにも関わるきっかけとなると思う。また、教育を地域・社会に開かれたものにするための先駆けとなることができると思う。」と述べた。

現在、教育は地域に開けたものになっていると思うかという問いには、5段階中3つ目のどちらでもない。地域社会は子どもの教育に関わろうとしていると思うかという問いには、5段階中4つ目のどちらかかというと思う。地域社会は子どもの教育に貢献していると思うかという問いには、5段階中4つ目のどちらかかというと思う。と回答した。

最後に、子どもの学びを支えるために地域社会ができることとして「まずは知ろうとすること。そして、子どもたちに対して何ができるかを考え、できることから初めていくこと。」をあげた。

日本オーストラリアンフットボール協会の取り組みとインタビュー結果について考察を行う。まず、ある分野でトップレベルの経験をした人の体験談や考え方を子どものうちに知ることは、日々の生活に刺激を与え、視野を広げたり考え方の幅を広げたりすることに繋がるだろう。また、スポーツをきっかけとして、自分の将来やキャリアについて大まかにでも考える機会は大きな財産となると考える。ワークショップにより、好きを仕事につなげるための具体的方法やそのために今できる事を考えさせることは、普段の生活ではなかなかしないことであり、子どもたちにとってとても有意義な時間になるだろう。スポーツは、子どもたちに通常の学校生活では考えにくいことを考え、学びにくいことを学ぶ、きっかけを作る力があると考えられる。

次に、一団体の意見しか集めることができていないが、アンケート結果から、現状教育は地域社会に開けているとは言えないと考える。子どもの教育について、自分から知ろうとし

ている人、関わろうとしている人とそうでない人の差が大きいと予測する。これは一個人だけでなく企業についても同様であると考える。日本オーストラリアンフットボール協会など土曜学習応援団に賛同している企業がある一方、そうでない企業もある。それは当たり前のことではあるが、逆に地域教育に携わることがスタンダードになる社会を実現するための方法は考え続ける必要があるだろう。近年、企業や投資家は CSR<sup>12</sup>や ESG 投資<sup>13</sup>を重視する傾向にある。地域教育への貢献が社会（social）の指標に含まれるとすれば、企業が地域教育により積極的に関わる社会の実現は実現可能であると言える。

### 3. スポーツの発達上、教育上の意義

#### 3-1 スポーツの発達上の意義

文部科学省が策定した幼児期運動指針<sup>14</sup>では、子どもの身体活動の意義として、5つの項目をあげている。ここでは5つの項目のうち、身体活動が子どもの体や心の成長に与える影響について記す。

##### ①体力・運動能力の向上

体力は健康の維持のほか、意欲や気力といった精神面の充実にも大きく関わっており、人が生きていくために重要なものである。日ごろから体を動かすことで、持久力を高めることができる。また、特に幼児期は、神経機能の発達が著しく、タイミングよく動いたり、力の加減をコントロールしたりするなどの運動を調整する能力が顕著に向上する時期である。この能力は、新しい動きを身に付けるときに重要な働きをする能力であるとともに、周りの状況の的確な判断や予測に基づいて行動する能力を含んでおり、けがや事故を防止することにもつながる。

##### ②健康的な体の育成

適切な運動をすると、丈夫でバランスのとれた体を育みやすくなる。また、体調不良を防ぎ、身体的にも精神的にも疲労感を残さない効果があると考えられる。特に運動習慣を身に付けると、身体の諸機能における発達が促されることにより、生涯にわたる健康的で活動的な生活習慣の形成にも役立つ可能性が高くなる。肥満や痩身を防ぐ効果もあり、成人後も生活

---

<sup>12</sup>corporate social responsibility 企業の社会的責任。企業の社会的責任とは、企業が社会や環境と共存し、持続可能な成長を図るため、その活動の影響について責任をとる企業行動であり、企業を取り巻く様々なステークホルダーからの信頼を得るための企業のあり方を指す。

経済産業省 企業会計、開示、CSR（企業の社会的責任）政策（2022年6月24日閲覧）

[企業会計、開示、CSR（企業の社会的責任）政策（METI/経済産業省）](#)

<sup>13</sup>従来の財務情報だけでなく、環境（Environment）・社会（Social）・ガバナンス（Governance）要素も考慮した投資のことを指す。

経済産業省 ESG 投資（2022年6月24日閲覧）[ESG 投資（METI/経済産業省）](#)

<sup>14</sup> 文部科学省 幼児期運動指針（2022年6月26日閲覧）[幼児期運動指針：文部科学省（mext.go.jp）](#)



習慣病になる危険性は低くなると考えられる。

### ③意欲的な心の発育

子どもにとって体を動かすことは、健やかな心の育ちも促す効果がある。また、スポーツや遊びから得られる成功体験によって育まれる意欲や有能感は、体を活発に動かす機会を増大させるとともに、何事にも意欲的に取り組む態度を養うことにつながる。

## 3-2 スポーツの教育上の意義

幼児期運動指針<sup>15</sup>が子どもの身体活動の意義として示す5つの項目のうち、身体活動が子どもの学習能力や社会性に与える影響について記す。

### ④社会適応力の発達

子どもは遊びやスポーツの中で、ルールを守ることや自己抑制、コミュニケーションを取り方など、協調する社会性を養うことができる。

### ⑤認知的能力の発達

運動を行うときは状況判断から運動の実行まで、脳の多くの領域を使用する。すばやい方向転換などの敏捷な身のこなしや状況判断・予測などの思考判断を要する全身運動は、脳の運動制御機能や知的機能の発達促進に有効であると考えられる。自分たちの遊びに合わせてルールを変化させたりすることは、豊かな創造力も育むことにもつながる。

このように、子どもが身体活動をすることは心身の発達上、教育上意義があることであることが分かる。判断力、集中力、行動力、執着心、礼儀なども、幼児期運動指針にはないスポーツの発達・教育的意義として考えることができる。

## 4. 社会に開かれた教育課程の在り方とは

### 4-1 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて：国、自治体、企業等、学校の役割

2章にて示した国・自治体・企業等が行っている活動を分析し、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて国・自治体・企業等・学校がどのような役割を担っているか、担うべきかを考察する。

まず、国は全国どこの学校でも一定の水準で教育が行われるように、時代や社会情勢に合わせて方針を示すことが役割であると考え。新学習指導要領では、社会に開かれた教育課程の実現のためにコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進活動を推進している。企業や自治体、学校、保護者、地域住民などにむけて、事例を示すなどの情報開

---

<sup>15</sup> 文部科学省 幼児期運動指針（2022年6月26日閲覧）[幼児期運動指針：文部科学省 \(mext.go.jp\)](https://www.mext.go.jp/)

示も重要な役割であろう。

次に、自治体は、新学習指導要領や個々の地域特性や活動の状況を踏まえて、明確な方針を打ち出すことが役割であると考え。また、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進が実現するために不可欠である、地域コーディネーターの人財確保とその存在を地域住民や学校へ周知、理解促進も地方自治体の役割であろう。

企業等は、CSR や ESG 投資の理念にのっとり、子どもや地域社会に対して、自己の持つ教育資源を提供することで、地域と学校をつなげたり、学校の負担を軽減したりするなどの役割があると考え。このとき、子どもや保護者、学校が持つニーズを踏まえたサービスを提供することや、ニーズを聞き入れる体制を整えることが必要であろう。

学校は、学校が抱える課題や取り組みの現状、必要としている支援などについて、地域住民や保護者に対して、明確に示すことが役割であると考え。また、地域コーディネーターの居場所を学校内に作ったり、教員全体に地域との協働の意義を伝えたりすることも必要であろう。

#### 4-2 地域教育におけるスポーツの役割

現状、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、地域と学校の連携・協働を達成するための体制が、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な活動においてみられる。また、企業等が地域や学校と連携しつつ、サービスとして子どもに教育の機会を与える一員となり、多様な教育を実現しようと試みている。国、自治体、企業等、学校の役割はある程度明確であるが、機能していると言い切ることはできないだろう。それぞれが、連携・協働しつつ自己の役割を認識するだけでなく、機能していくための体制を整えていくことが必要であると考え。

そして、社会に開かれた教育課程を実現していくためのポイントを、国、自治体、企業等、学校の連携・協働のほかに、継続的な関係構築と能動的な取り組みと考える。スポーツは2-5で述べたように子どもたちにとって馴染みやすいものであるため、子どもたちが能動的に関わってくれることが期待できる。また、座学では学ぶことのできないことや普段取り掛かりにくいことに関わるきっかけとなる可能性を秘めている。そして3章で示したように、スポーツや体を動かすことは子どもの心身の発達や、教育にとっても価値があるものであり。さらに、子どもにとって、スポーツを通じて地域の人々と関係を持つことは地元愛の醸成にもつながるだろう。地域の人々にとっては、連帯感や一体感を生みやすいスポーツという媒体を通すことで、地域(企業や大学等)と子ども(学校)が1つの目標に向かって活動行うことができ、継続的に関係を築きやすいと考える。以上のことを踏まえスポーツは、「社会に開かれた教育を実現するための突破口」であると言える。これを地域教育におけるスポーツの役割であるとする。